巻　頭　言

経営情報学部長　竹下 誠二郎

新型コロナウイルス感染症の流行により，New Norm の出現・定着があらゆる場面でみられている。教育はもちろんその一つで、オンライン学習や自主学習が求められている。城南静岡高等学校の鍋田真一先生（2021年度より経営情報イノベーション研究科の博士後期課程に在籍）と静岡県立大学経営情報学部の湯瀬裕昭教授は「高等学校数学科を対象とした生徒の自主学習支援手法についての検討」にて、コロナ下の環境変化のなかで学習意欲を維持・向上させ、基礎学力の定着を図り、さらなる学力向上を図るための高等学校数学科を対象とした生徒の自主学習支援手法について検討している。

本年度の卒業論文は昨年同様、文系・理系の垣根を越えて、ビジネスや公共、観光など社会の各領域でのイノベーションに寄与する当学部における文理融合のコンセプトが色濃く反映されていた。多岐にわたる内容で、またそれらが経営、総合政策、データサイエンス、観光マネジメントの 4 分野とシンクロナイズしている、大変興味深いものが多かった。

今年度末に経営情報学部および経営情報イノベーション研究科に多大なる貢献をされた二人の先生が定年退職される。

松浦博先生は東京芝浦電気株式会社（1984年 株式会社東芝に改称)、東芝研究開発センターなどを経て2007年 9 月に静岡県立大学経営情報学部の教授として赴任された。パターン認識、音声認識、マルチメディア工学、ヒューマンインタフェース、情報処理システムのご専門分野でご活躍された。松浦先生は経営情報イノベーション研究科の第 2 代研究科長（2012年-2013年）を務められた後、経営情報学部の第11代学部長（2013年-2017年）としてご尽力いただいた。学部長の時、松浦先生は一般前期で数学、英語の試験を導入し、当学部がそれまで課題となっていた入試倍率の下落に歯止めをかけた。

金川幸司先生は兵庫県庁、岡山理科大学総合情報学部などを経て2010年 4 月に静岡県立大学経営情報学部の教授として赴任された。以来11年間、政策分野の教員として、地方自治、ＮＰＯ、ガバナンス論を中心に研究教育を行われてきた。特に静岡県での社会活動は正に目を見張るものがある。また、教育面では自治体職員を中心とする多くの社会人を院生として送り出し、学部学生とはできるだけ現場に赴くことを旨とされてきた。経営情報イノベーション研究科の第 3 代研究科長として2013年から2017年までご尽力いただいた。

両先生とも長きに渡り、学部・研究科の発展にご尽力いただいた。私が経営情報学部に赴任したとき、松浦先生が学部長、金川先生が研究科長であった。大変さみしい気がするが、両先生の新天地での益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。